

鬼山石

No.2

平成23. 9. 30
阿蘇北中学校広報誌係
成瀬 西村 尾藤

ウサギとカメラ (郡陸三連覇！)

校長 麻生廣文

「阿蘇北中有終の美、郡陸栄光の三連覇！・・・こんな見出しが頭の中をよぎった。九月二十七日、阿蘇郡市中学生陸上競技大会が「阿蘇市農村公園あびか陸上競技場」で開催され、阿蘇北中は男子の部優勝、女子の部準優勝、総合優勝の栄冠を勝ち取った。陸上部はじめとする選手はもとより、全校生徒や保護者、全職員が力の結集であった。

話は変わって、二十年程前のことであるが、「ウサギとカメラの話」で、「ウサギはなぜ負けたのか」が話題になった。「ウサギはカメラを見ていて、カメラはゴールを見ていた」からという事になった。競走相手のカメラに目標を置いたウサギは優位に立った時、油断して負けた。あくまでも目標をゴールに置いたカメラは、着実に歩み続けて勝った。こんな話を当時の中学生に語りこんだ。

この話には後日談があることを最近知った。・・・負けて悔やしくてたまらないウサギは再戦を挑む。カメラは「自分がスタートとゴールを決めてもいいなら」と提案する。ウサギはそれを承諾し、彼らは再び戦うことになる。カメラは、大きな川の両側にスタートとゴール地点を決める。「用意ドーン！」とともにウサギはとび出し、川のほとりまで来るが、水が満々として渡ることができない。大急ぎ、川の上流めがけて走り、やつの思いで橋にたどり着く。今度は、下流めがけて対岸を走り続ける。一方、カメラは川のほとりに来ると、「トポン」と川にとび込み、すいすいと川を泳ぎ切る。必死でウサギがゴールに近づいた時、カメラは涼しい顔をして、必死に合せていた。・・・こんな話である。カメラは、自分の特技に合わせたコースを選択した。ウサギは、知恵でもカメラに負けたのである。

さて、本年度の大会は選手たちにくつものプレッシャーを背負わせていた。三連覇であり、北中最後の大会であり、本校の伝統の重さであった。しかしこのことを生徒たちは逆風に、大きな目標に変えた。他校の生徒の目標は「打倒阿蘇北中！」だったのかもしれない。また、本校はいろいろな種目にまんばんとなく出場した。フィールド種目も活躍した。持たずや特性を生かした結果であった。総合優勝は、生徒たちの特技や個性を生かした結果であるといえる。

美しい光景があった。本校生徒は、成績発表で優勝とわかっても敗者の心も思いやっていた。大歓声を上げなかつた。育大会同様、勝つても大はしゃぎしない真の勝者の姿であった。がしい光景が重なり、熱いものが込み上げた。

Ambitious

～大志を抱いて～

9月10日(土)雨が心配されましたが、当日は快晴の中、阿蘇北中学校最後の体育大会が行われました。阿蘇市市長はじめ多くの来賓の方、家族の皆さんに見守られながらの、堂々たる入場行進に始まった本番。全競技にわたって全校生徒が力の限り走り、演技をしました。



「ピラミッド」
ぱっちり決まりました！
阿蘇北中学校52年間
ありがとう！！



赤団の堂々たる炎舞！
赤団優勝！！



女子全員で踊った
「ソーラン節」
女子の笑顔のかわいらしさと力強さが、
表現されていました。
かっこよくきまったね！



3年生においては、夏休み後半から、団長を中心に、演舞練習やスタンド計画、パネル制作に試行錯誤しながら取り組みました。本大会テーマ『Ambitious』には大志を抱いて、新中学校へ羽ばたいていけるようにというようにと、意味を込めました。



1年生の「台風の日」2年生の「3人4脚」3年生の「ソリ引き&あめ食い競争」、各学級対抗リレー。生徒だけでなく、育友会参加競技「綱引き」の参加もあり、大いに盛り上がりました。感動の応援団炎舞フィナーレが終了し、阿蘇北中最後の素晴らしい体育大会となりました。